

県央支部だより

発行
公益社団法人新潟県看護協会
県央支部

ごあいさつ

県央支部長 佐々木 美奈子
(社会医療法人崇徳会
新潟県立加茂病院 看護部長)



会員の皆さまには、日頃より看護協会県央支部活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。2024年6月より支部長を務めさせていただいております、崇徳会県立加茂病院の佐々木です。新潟県看護協会では重点目標・重点課題3か年計画事業3年目を迎えました。当県央支部も県協会の方針に沿い、住民の方々が住み慣れた場所で安心して暮らせるよう、多岐に亘る県央地域の課題に対し積極的に取り組んでまいります。まずは、生活習慣病の改善に三条保健所管内CKD・糖尿病患者等療養支援社会資源情報のプラットフォームに看護協会県央支部として名を連ねました。保健師職の活動は職能だよりで見える化され、助産師職は長岡圏域と協同で士気を高めております。看護職は2024年圏域の医療再編に伴い、行政と看護部長会で透析患者の療養の場が課題に挙がり、済生会三条病院のご協力により関係者会議が始まりました。圏域内の学習環境には県央基幹病院が救急看護研修開催や専門・認定看護師のコンサルテーションルートを公表してくださるなど心強く感じております。今後も支部の様々な現場で働く保健師・助産師・看護師の現状を知り、いつ、だれが、何をどのように課題解決して行くか、皆さまと語り合いたいと思っております。そのためには皆さまと集う場を作り、私たちが気楽に楽しくおしゃべりして輪を広げ、地域の方々の暮らしの支援につなげていきたいと思っております。

事務局からの お知らせ

報告

令和7年度

新潟県看護協会県央支部通常集会

新潟県看護協会県央支部通常集会を下記の通り行いました。
集会終了後には一般の方の参加もいただき特別講演が開催されました。

日時：令和7年6月28日(土) 午前8時45分から12時

会場：燕三条地場産業振興センター

リサーチコア 7階 マルチメディアホール

出席者：51人

特別講演：「心と体のセルフケア」

～働く人のためのピラティス～

講師：YELL CONDITIONINGS 吉田 加奈子氏



*新潟県看護協会県央支部会員数1,240人
(令和7年9月現在)

お知らせ

令和8年度

新潟県看護協会

県央支部通常集会

日時：令和8年6月27日(土)

場所：崇徳会県立加茂病院 多目的ホール
にて開催予定です

詳細は後日お知らせいたします

県央支部書記 後藤 由美子



「地域の皆さまの 健康と安心を守る」 地域包括医療病棟を 開設しました！

社会福祉法人
恩賜財団済生会三条病院
霜鳥 晓子（北2階病棟看護師長）



当院では、2025年1月より「地域包括医療病棟」を新たに開設しました。この病棟は、高齢化社会における医療ニーズに応えるため、患者さんが安心して治療を受けられる環境を整えた新しい医療提供体制です。地域の中小病院として、大病院と役割を分担し、効率的かつ充実した医療を目指しています。

地域包括医療病棟の特徴

1. 一貫した支援：入院中の治療からリハビリ、退院後の生活支援まで包括的に提供
2. 高齢者特有の疾患対応：誤嚥性肺炎や尿路感染症への対応、リハビリや栄養管理を実施
3. 多職種連携：理学療法士、作業療法士、管理栄養士などがチームで患者さんを支援

地域・患者さんへの利点

1. 入院中の手厚いケアと効率的な退院支援により、患者さんの早期回復をサポート
2. 大病院との連携による地域医療全体の効率化
3. 地域住民に「身近で頼れる医療」を提供

地域包括医療病棟では、患者さんがADLを低下せず、元の生活に速やかに戻れるよう、多職種が協力して支援を行います。入院当日から治療と並行して、リハビリや栄養管理、口腔ケアを徹底し、患者さんの生活の質を保つことを重視しています。また、定期的なカンファレンスを通じて、多職種が専門性を発揮しながらチーム医療を実践しています。

私たちは、地域密着型病院として「地域の皆さまの健康と安心を守る」ことを目指しています。



施設紹介 訪問看護ステーション おはぎ

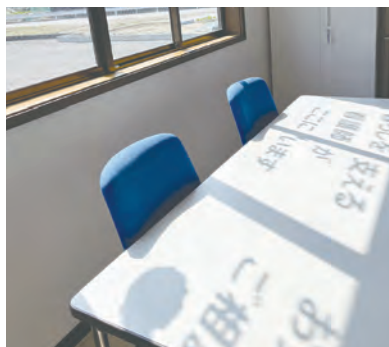
訪問看護ステーション おはぎ
代表取締役所長 高山 才子

地域・生活に溶け込める看護を目指し、2021年3月「訪問看護おはぎ」を設立しました。事業所名には、“おばあちゃんがおはぎを作るときのように、あたたかく、やさしく、包み込むような看護を届けたい”という思いを込めています。同じ思いを持つ仲間が集まり、現在は看護師8名、専門職を含む多職種計14名で活動しています。スローガンは“ひとつの声”を“生活のカタチ”に“えがお”に。

訪問看護はバイタル測定や医療処置だけと思われがちですが、私たちはその人の歩んできた人生や思い、暮らしの環境まで含めてアセスメントし、本人・家族・医療機関・地域支援者と共に「その人らしく生きるために何ができるか」を考え、実践しています。

加茂市・田上町は高齢化率が約4割と全国平均を大きく上回り、医療インフラも限られた地域です。そのため訪問看護の重要性が一層高まっています。利用者は脳疾患や認知症が約4割、精神疾患が2割近くを占め、全体の66%が60歳以上となっていますが、地域に住む赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代に、身体とこころを支える看護を提供しています。

また「まちの保健室」や講演会、地域集会での健康増進・フレイル予防活動を通じ、看護に触れられる場づくりにも努めています。困ったときに駆け込める場所でありたい。共に笑い、悩み、考えながら生きていく存在でありたい。その思いを胸に、地域と共に歩み続けます。あなたの声を聞かせてください。



県央支部だより

令和7年度 委員会活動について

保健師職能委員長 今井 由貴
(燕市役所)

日頃より保健師職能委員会の活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

保健師職能委員会は、保健師としての実践能力の向上や会員同士のコミュニケーション、情報交換を目的に「職能だより」「研修会・交流会」を主な活動として行っております。

昨年度は「災害時保健活動対応」をテーマに、研修会を行いました。能登半島地震での派遣経験や平時からの備えについての講話、また、経験年数ごとにグループワークを行い、意見交換や情報共有を行いました。

今年度も保健師活動に活かせるような研修会を準備していきます。保健師の活動がさらに充実するよう、会員同士のつながりや情報交換の機会を大切にしていきたいと考えております。引き続き、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

助産師職能委員長 坂井 友美
(レディスクリニック石黒)

助産師職能委員会県央支部の活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。

県央支部は長岡支部と合同で活動をしております。一昨年度より交流会を開き、県央・長岡地域で働く助産師・保健師が直接情報交換できる場となっております。互いに問題や課題を共有し、親子へのより良い支援の在り方を考えるための有意義な話し合いができ、切れ目ない支援のために産科施設と地域とがつながり連携していくことの大切さを改めて認識しております。今後も妊産婦や子育て家庭への切れ目ない支援、地域のニーズや皆様の希望に添える活動をしていきたいと考えております。引き続き、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

看護師職能委員長 羽下 亜矢子
(社会福祉法人 恩賜財団済生会新潟県央基幹病院)

日頃より、看護職能委員会県央支部の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

看護師職能委員は、病院勤務者Ⅰと施設勤務者Ⅱが協力して活動しています。主な活動は、年1回予定している交流研修会の企画運営です。

令和7年度は「心不全における日常生活支援」をテーマに、済生会新潟県央基幹病院 慢性心不全認定看護師の坂井和泉様をお迎えして講演を行いました。心不全パンデミックの時代において、再発予防のための支援はとても大切であり、その重要性を改めて認識する機会となりました。

今後も、現場で抱えている問題や課題について交流研修会を企画していきます。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

教育委員長 奥谷 順子
(医療法人 積発堂 富永草野病院)

平素より教育委員会県央支部の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

教育委員会は通常集会後の特別講演の企画運営を行っております。

今年度はYEEL CONDITIONINGS吉田加奈子氏より「心と体のセルフケア ～働く人の為のピラティス～」と題して、現代人が抱える身体の不調に対し座りながらできるエクササイズを参加者も一緒に行いながら講演をしていただきました。終了後は「身体が楽になった」「日常生活に取り入れたい」等、多くの方からご満足のお声を頂戴しました。

来年度の特別講演も、一般の方など多くの方に有益な情報をお届けできるよう企画してまいりたいと思います。

今年度も引き続きご指導ご協力をよろしくお願いいたします。

編集後記

県央支部だより第55号を公開します。

お忙しい中、ご寄稿して頂きました皆様、ありがとうございました。

皆様に紹介したい情報・ご意見などありましたら、ぜひ広報委員までお知らせ下さい。

広報委員 坂井 井上 田中 番場 三本

◎問い合わせ 広報委員長 坂井 可奈(三条看護・医療・歯科衛生専門学校) TEL:0256-47-1755